

住

マンションの管理組合同士が情報交換をする交流会が各地で開かれていく。よたへ、他の管理組合の活動内容を知らずにはあまらぬ。交流を通じ、管理会社の対応や修繕工事の進め方が比較でき、運営の参考にすることができる。

マンション管理組合

交流会で共に情報交換

交流会がきっかけで、他のマンションの修繕現場を訪れた。実際の施工方法を確認することができ、参考になりました」と話す。

交流会は、市の支援事業として2005年から始まった。現在は神奈川県マンション管理士会など5団体が共催し、毎月第1日曜日に市内18区

の会場で一斉に開催。管理組合の役員でないマンション住民らも参加できる。参加費は資料代などを除けば無料だ。

マンション管理士や建築士らが「相談員」として同席し、専門的な助言も行う。同マンション管理士会理事の鷲谷雄作さんは、「運営法や住民の合意形成の仕方を比較しあう場になっています」と話す。

管理組合同士の交流会は、行われた10年以降、自治体がかかわる形であがってきた。

自治体にマンション管理を支援する努力が求められたから

理の情報提供会社「マンション管理組合サポート」(東京都)は今春、サイト「マンくみ」

だ。

東京都品川区は、区内のマンション管理組合を対象にした交流会を昨年度から年2回開いている。同区が区内の23カ所のマンション管理組合理事長らに聞いた調査によると、58%が相互交換が「必要」と答えた。茨城県つくば市でも今年、「つくば市マンション連絡会」が発足し、今月7日に同市などの主催で設立記念セミナーが開かれた。

自分から地域で交流会が開かれているかをみると、自治体の住所関係の窓口にはわかる。NPO法人などで主催する交流会もある。

日本マンション学会会長で千葉大教授の小林秀樹さんは、「当事者が関を結んで話せる交流会では、管理会社の修繕工事業者の評判など、具体的な情報が把握できる」と話す。表参照。ただし「工事費が安い」などの誤った情報に注意してほしいという。

自分が暮らす地域で交流会が開かれているかをみると、自治体の住所関係の窓口にはわかる。NPO法人などで主催する交流会もある。

今月7日、横浜市金沢区で地元マンションの管理組合の役員らが集う交流会が開かれた。10カ所のマンションから1人が参加。「住戸専用の排水管の清掃をしながらも、いいという住民がいた場合、どうしていますか」との質問に、別のマンションの参加者が「清掃をせずに漏水があった場合は責任を取る」という誓約書を書いてもらっている」と説明する。結局、具体的な情報交換が行われた。

初めて参加した男性(引)は、「昨秋、管理組合の理事長になったが、修繕積立金の決め方がわからない。管理会社には相談しているが、よそさんのマンションがどうしているのか、知りたくて参加しました」。

また、別の男性(引)は、「大規模修繕の委員を務めた時



- 交流会で情報交換したいポイント
- ・管理会社はどこか。委託内容や日常の対応などを比較
 - ・大規模修繕を行った組合に施工業者名やかかった費用などを聞く
 - ・役員のみならず手不足など、マンションが抱える課題の解決策
 - ・ルール作りなどの合意形成法
- (小林さん、鷲谷さんの話から)

運営法や修繕を比較

交流会では管理組合同士が交流会が市内18区各地のセンターなどで開かれていく。同市各区分の